

子供 夢・アート・アカデミー

10月3日 日本芸術院主催の文化事業の一環で神戸市立中学校の特別支援学級で陶芸用粘土による立体造形の授業が開催されました。日本芸術院会員・神戸峰男先生をリーダーとするティームティーチングの教師の一人として私は参加させていただきました。その時に会った子供たちの中から特に印象に残ったエピソードを紹介します。

夢・アート・アカデミーで出会った子供たちの感性

その少女は粘土でクッキーのような「お菓子」らしきものを数個つくっていた。どこかつくり足りなさそうな表情に見えたのだった。そこで私はそれらを入れる器のようなものをつくるための粘土をもう一塊彼女に与えてみた。

作った器にその「お菓子」を入れて完成かと思われた。ところが彼女は薄い粘土の「ハンカチ」のようなもので上から「お菓子」が見えないように覆いかぶせてしまった。おしゃべりが得意ではなさそうな寡黙な少女は、一見しただけでは単なる粘土の塊にしか見えなくなったものを「完成」とした。授業は最後の鑑賞会に移っていった。

彼女の作品の解説の番が来た。友人や先生方の聴いている前で神戸先生の「これは何が入っているのですか？」という質問に彼女はか細い声で答えた。

「私の心です」

周囲は静まり返った。

感動の一瞬だ。

授業において、この機会に立ち会えた人々は皆教師たちも生徒たちもめったに味わえない濃密な芸術の空間につつまれる体験になった。

2023年10月



制作風景



鑑賞会風景

中央は神戸峰男先生